

半農半Xとはしたたかな戦略です。したたかな戦略といってもみんながしあわせになれる道を模索する戦略です

「半農半Xという生き方～小さな農と天職と～」講演基本レジュメ

半農半X研究所 塩見 直紀(京都・綾部) 2009.03.01作成

【0】大変な時代

大震災、巨大台風時代、地球温暖化、少子高齢化・・・をどう生きるか、何をなすべきか
黒字世代と赤字世代(『脱＝「年金依存」社会』『希望格差社会』『下流社会』・・・)

【1】半農半X(エックス)に至る背景～自己紹介～

綾部生まれ	1965年(昭和40年)「不惑」を過ぎました。半農半Xのおかげでブレません... 京都府綾部市(人口約3.7万人) 里山ゾーン 逆賊(尊氏、光秀、王仁三郎...) 大本教(出口王仁三郎)、グンゼ(郡是・蚕都)、合気道発祥地、平和都市...
原風景	山の神さま(村行事) 里山、昆虫少年、元伊勢神社(福知山市大江町)...
小学校等	同級生9人、児童数60名 99年閉校 跡地利用(都市交流施設) 高齢少子 約73戸の鍛冶屋町民の3/5が65歳以上
駅等	バス・・・市営バス綾部駅まで6便/日・300円 最寄り駅・・・JR綾部 車で約15分、9キロ 信号なし・・・最近まで、信号ゼロで駅まで可能だった 農協閉店0 住民出資、店「空山の里」「月星日」オープン

昭和一ケタ以上の方の知恵を早急に収集する必要あり(地元学)

【2】環境問題との出会い～「将来世代」の観点から地球環境問題を考えた企業時代

(テーマ:生き方と環境問題)

2つの難問の解決(ライフスタイルの問題・環境問題 ころころ・人生の問題)

21世紀の「2大問題」～環境問題と天職問題(生きる意味、生きがい、自分探し、天職探し・・・)

4つの「もったいない」(資源浪費、天の才の未活用、地域資源の未活用、未コラボレーション)

21世紀の加減乗除(継続、引き算のライフスタイル、コラボレーション=共創、テーマ探究)

【3】人生を変えた4つのキーワード:「時間軸」「持続可能性」「贈り物」「生き方」・・・

・「7世代」(ネイティブアメリカン・イロコイ族)・・・1991年頃 7世代=210年先見通す

・「将来世代(future generations)」(1992年地球サミット)・・・92年頃 sustainable development

・「後世への最大遺物」(内村鑑三・33歳・1894年講演録)・・・93年 お金か、思想か、事業か、人生か

・「半農半著」(作家・翻訳家 星川淳さん)・・・1994～5年頃 半農半漁 半農半著 半農半X ?

星川さん=研究所アドバイザー

晴耕雨読 晴耕雨創(雨奏、雨木)

夏田冬蔵 晴田雨造

【4】半農半X(エックス)とは

天の意に沿って小さく暮らし、天賦の才(個性、長所など)を世に活かす生き方、暮らし方を1995年頃から、「半農半X」と呼ぶ。持続可能な農ある小さな暮らし(農的生活、天の意に沿う生き方、自発的簡素、シンプルライフ、自給自足、地球にローインパクトな暮らし、野草や自然を暮らしに取り込むていねいな暮らしなど)をベースに、自らの「X」(エックス=天が自らに与えた役割、使命・ミッション、ライフワーク、生きがい、天職、天の仕事、天の才、未知なるもの...)を実践し、発信し、全うしていく社会を模索。

コンセプト誕生後、約12年経ったいま、思うのはこの道でいいだろうということ。

きっかけ・・・屋久島在住の作家・翻訳家である星川淳さんの著書の中で、自身の生き方を表現した「半農半著」(エコロジカルな暮らしをベースにしながら、執筆で社会にメッセージする生き方)というキーワードに出会ったこと。この生き方は21世紀の生き方・暮らし方の一つのモデルにきつとなる、と直観。みんな、自分の「X(未知なる何か)」を探しているのかもしれない。「半農半著」の「著」の部分に「X」を入れてみた。すると・・・。これは難問を抱えた人類におそらく応用可能な、21世紀を生きるための一つの公式になるのではないか。永続して生きていくための「小さな農」,「天性」を世に活かし、社会的な問題を解決するための「X」。20世紀が残した難問群を解決するには、この2つのことが同時に必要なのではないかと確信。余談・・・半農半Xの「X」以前は「it(それ)」だった。半農半it

「半農半X」という四字が表現しているもの
・Xとは・・・

私と世界が交わり生まれる「何か」 パラレルとクロス 2つのバーの接点がX
 未知数(未来) RX7(マツダ)
 無限性 多様性 クロスロード(分岐点) 出会い・交流・融合・コラボレーション
 自分探し・生きがい・役にたちたいという心、 「自分」と「社会」の接点=X(天職)
 NHK「プロジェクトX」2000年3月~放映

・半農とは・・・

時間(費やす時間)でも、広さ(面積)でもない。別の言葉でいえば、「いのち」「感性(センス・オブ・ワンダー)」、環境問題・持続可能性(サステナビリティ) 農が天職に、天職が農にプラスの影響を与える
田んぼでインスピレーション(田はアイデアの産地)

半農半Xが重視する8つのキーワード

情報発信 (ジャーナリスト、出力、シェア)	天職、ミッション、役割 (自己定義、貢献の舞台)	手仕事、アート (アーティスト、表現)
瞑想、散歩、思索 (アイデア、インスピレーション)	半農半X	小さな農、採集 (身体性、汗)
コミュニティ、地元 (終の住処、修行の舞台)	地球環境、持続可能性 (エコロジスト、感性、生命性)	家族 (だんらん、人間関係)

結局は「つながりの回復」 スローライフ、スローフードも同じ 生命多様性と使命多様性

21世紀の公式

キーワード：小さな農、天の才、地元(地域・コミュニティ)、翼(風)、根っこ(土)、メディアの自給
 ポジションが決まれば、ミッションがわかる(鴨川自然王国・藤本敏夫さんのことば)

私案 21世紀の公式 = $\frac{\text{天与の才を活かした仕事(X)} \cdots \cdots X = \text{翼(風)}}{\text{農ある持続可能な小さな暮らし (Simple Life)} \cdots \cdots \text{農} = \text{根っこ(土)} \times \text{土}}$

ヨハン・ゲーテの詩「心が海に乗り出すとき、新しい言葉が筏を提供する」。海に乗り出すためには新しい言葉、新しいコンセプトが要る。意識が変わり、行動が変わり、暮らし方、生き方が変わる新しい概念の創出が必要。いいまちづくりをしているところには、いいコンセプトがある。

新しい概念の事例・・・イタリア発の「スローフード」、日本の「地産地消」、福祉の世界ではアメリカ発の「チャレンジド」・・・これらは新世紀という大海原へ漕ぎ出せるための筏、多くの人をインスパイアし、新しい世紀を創るための力となっている。「定年帰農」(農文協)、「社会起業家」、「スロービジネス」・・・

Time is money. (時は金なり)

English is money. (英語ができると活躍できる舞台が広がる)

Concept is money. (新概念創出 = 価値創出、雇用創出、交流創出・・・) 新しい時代には新しい言葉が要る!

ライフワークはミッションサポート (市町村～個人まで) とコンセプトメイク (半農半X、使命多様性、スローレボリューション、日常美、人生探求都市) 半農半社会起業家 (セルフビジョン)

半農半Xという生き方、暮らし方が問題解決するもの・・・

環境 (様々な汚染や温暖化...) 食 (安全性や食糧自給率...) ところ (生きる意味の喪失や買い物依存...) 教育 (科学、感性、生きる力...) 医療・福祉 (高齢社会の介護やPPK...) や社会的不安 (不況・失業...) という難問を解くキーコンセプトになるのではないか。

半農半Xという生き方、暮らし方がもたらすもの・・・

それは持続可能で、魅力溢れる多様な社会。後世に生き方の贈り物をする社会。一人ひとりが天の意に沿う持続可能な小さな暮らしをベースに、天与の才を世のために活かし、社会的使命を実践し、発信し、全うしていく生き方。そんな社会が本当にできるのではないだろうかと考えている。そんな社会を「天の才を発揮し合う社会」と私は呼ぶ。「使命多様性」

みんなみんな必ず自分だけの「X」を持っている。それは人間だけではない。あらゆる生命、森羅万象には天与の才がきっとある。私たちのXは何か 【8】へ

私たちの前には難問が山積しているが、希望の未来を築いていくには、小さな暮らしを始めること、そして、みんなが「天与の才(志)」を世に活かす(シェアする、ギフトする)ことが大事。

【5】わが家の半農半Xスタイル 人にはどれだけの土地が必要か(トルストイ)

3反 = 50m x 60m 「半農」とは・・・「広さ」でも、「時間」でもない

農	田んぼ(3反)	米 3反(1000本プロジェクト)、貸 3反	本人+家族+ 96年～
	畑(1反/野菜)	他の畑 無償で貸しています(読者)	つれあいと
	山野	茶畑 竹林化	荒地整備中
	山	NPO法人間伐材研究所のフィールド	作業日 第1日曜
X	半農半X研究所	半農半X関連、数冊出版準備中	NPO/社会起業/SB
	里山ねっと・あやべ	業務契約 情報発信、綾部里山交流大学など	母校(廃校)事務所
	ポストスクール	毎週言葉をのせたポストカード発行	ソーシャル(スロー)ビジネス
	ミッションサポート	企画コンセプト、連載、講演、講師等	ソーシャルビジネス
	自然食料理教室	大阪・京都等で開催、出張も	つれあい
家族	4人	父、つれあい、娘(小学5年)	家族のX

家族 = ベースキャンプ (それぞれのミッションに向かう、キャンプ地は同じ)

【6】最先端? な半農半Xスタイル

・半農半社会起業、半農半NPO (食べていけるNPO) 半農半スロービジネス、半農半コミュニティビジネス、半農半ヘルパー、半農半Xスクールカウンセラー、半農半カフェ、半農半寺子屋、半農半町議、半農半唄者・・・

・21世紀のキーワードは「大好きなこと」 大好きなことで社会変革をする生き方が最先端

加藤登紀子さん (歌手として完成されたような加藤さんは、なぜ千葉・鴨川で農をするのか)

【7】未来予測・・・ 兼業農家、都市住民 半農半X化（会津坂下町のとある青年の例）
専業農家 半農半X化（綾部・河北卓也さんの例 地酒「穂乃花」
理想・・・半農半NPO、半農半社会起業、半農半スロ-ビジネス、半農半コミュニティビジネス
半農半ボランティア（半農半ヘルパー） PPK（ぴんぴんころり）

【8】私のXとは何か～Xの発見法

- 「強み（コア・コンピタンス）」と「弱さ（フラジャイル）」 ぜんざいには塩がいる
荒地の多い時代、農地探しは簡単だが、X探しは難しい・・・ ハンカチ落とし（足元）
- ・好きなこと×得意なこと×大事だと思うこと（社会性）・・・枝廣淳子さん（塩見は3時起き生活）
 - ・好きなこと×得意なこと×時流にあっている（時代性）・・・藤井孝一さん（「週末起業」著者）
 - ・社会性×独自性（オンリーワン）×事業性
 - ・大好きなことを見つけることは難しい たくさんあり過ぎる
選択と集中（捨てること、引き算、80：20の法則）

【9】21世紀の「2つのセンス」

～センス・オブ・ワンダー&社会起業家としてのセンス（コミュニティビジネス・センス）
生まれつき備わっている子どもの「自然の神秘さや不思議さに目を見張る感性」をいつも新鮮に保ち続けるためには私たちが住んでいる世界の喜び、感激、神秘などを子どもと一緒に再発見し感動を分かち合ってくれる大人が少なくともひとりそばにいる必要があります（レイチェル・カーソン）
半農＝センス・オブ・ワンダー、茶室の掛け軸、一輪ざしのようなものでもある
「好き」を仕事にしていく力、社会起業、市民起業 地域の問題を仕事にしていくセンス
メッセージの感受性とエクスカ（表現力）を高めること お金を否定せず

メッセージ：へば、なんとす

スモールビギニング（スモールアクション） 0 1 or 1 1 0 0 一匹の蚊の話
情報発信の大事さ 発信しない地域は滅びる 1人1発信！ 1日1発信！ 1日1行動！
発信すれば、解決することも多い。

【10】プロフィール 塩見 直紀（しおみ なおき） xseed@maia.eonet.ne.jp [T](mailto:xseed@maia.eonet.ne.jp) お気軽にメールください
1965年 京都府綾部市生まれ。大学入学の年から99年まで、伊勢、大阪、京都で暮らす。10年間、株式会社フェリシモの非営利部門（教育、企業財団・研究所）に在籍。「生き方と環境問題」をテーマとする。33歳で新しい人生を始めようと28歳のときに決めていた。「種子（た・ね）」「在来種（エアリュームシード）」「自家採種」等の観点から、21世紀の生き方、暮らし方を考える「たねっと」（NPO）を始める。1999年、約15年ぶりにUターンで帰郷。（偶然、それは母校の閉校年）2000年、半農半X研究所設立。2002年7月、農文協『青年帰農』（現代農業増刊号）で「半農半Xライフのススメ」を寄稿。2003年1月、日経新聞で半農半Xが紹介されたことがきっかけで、同年7月、ソニー・マガジズより『半農半Xという生き方』を上梓。朝日、読売新聞等の書評で紹介される。アマゾン最高位82位（?）04年11月、NHK「難問解決！ご近所の底力」（テーマ：田舎暮らし）で「半農半X」が“妙案”として全国に。06年1月、『半農半Xという生き方 実践編』（ソニー・マガジズ）を上梓。BS朝日「ハッピー！ロハス」出演、06年10月、『半農半Xという生き方』が台湾で翻訳出版。07年2月、半農半Xデザインスクール、スタート。同4月、朝日新聞「ニッポン人脈記（「ゆっくりと」）」で紹介される。『綾部発 半農半Xな人生の歩き方88』（遊タイム出版・07年10月）『半農半Xの種を蒔く』（種まき大作戦との共編著・コモンズ・同11月）2008年6月、半農半Xカレッジ東京、スタート。8月、『半農半Xという生き方』がソニー・マガジズ新書となり、再デビュー。08年11月、「半農半Xデザインブック（1）翼と根っこ」作成。09年3月、「半農半X版 就職しないで生きるには@大阪」開催（今度、定期開催へ）
<http://www.towanoe.jp/xseed/>（個人サイト）

基本スタイル：我々はすでに持っている。“あるもの”で発信しよう。次から次へと表現しよう。発信、発信、どんどん発信。座して死すべからず...。Local value but 21c century value

2000年5月より、都市と農村の交流、定住支援などをおこなう「里山ねっと・あやべ」の情報発信担当（契約スタッフ）、二十四節気の日にはメールニュース「里山的生活」を配信中（無料） 綾部里山交流大学2009も開催します。

公式サイト <http://www.satoyama.gr.jp>